



2018 年度日本語教育学会春季大会一般公開プログラムパネルディスカッション

日本語教員養成の新しい役割と可能性

—日本語指導が必要な子どもたちを取り巻く学習環境を手がかりとして—

日本語教員養成課程は実際に日本語教師となる学生ばかりではなく、日本語教育の知識を活かした様々な分野で活躍する人材を輩出し、多文化共生社会の構築に貢献しています。本プログラムでは、そのような人材を「日本語教育の視点を持った人材」と捉えたいと思います。昨今喫緊の社会的課題として注目されている日本語指導が必要な子どもたちを取り巻く学校内外の学習環境を切り口として、その支援についての実践・研究に取り組まれている方々をパネリストに迎え、日本語教育の視点を持った人材の育成を担う日本語教員養成課程の今後の役割や可能性について議論します。

日時：2018年5月26日（土）10:00～12:00（参加受付：当日9:30～）

場所：東京外国語大学府中キャンパス アゴラ・グローバル内 プロメテウス・ホール

田中宝紀氏（NPO 法人青少年自立援助センター一定住外国人子弟支援事業部責任者）

「子どもの日本語教育分野に求められるアンブレプレナーシップとは」



1979年東京都生まれ。16才で単身フィリピンのハイスクールに留学。フィリピンの子ども支援 NGO を経て、2010年より現職。「多様性が豊かさとなる未来」を目指して、海外にルーツを持つ子どもたちの専門的日本語教育を支援する『YSC グローバル・スクール』を運営。

小島祥美氏（愛知淑徳大学准教授）

「外国人の子どもの不就学「ゼロ」をめざして」



小学校教員、NGO 職員を経て、一地方自治体の全外国籍の子どもの就学実態を明らかにした日本初の研究成果により、岐阜県可児市教育委員会の初代外国人児童生徒コーディネーターに抜擢。コミュニティ・コラボレーションセンター（CCC）開設に伴い、愛知淑徳大学に着任。2017年度より現職（交流文化学部交流文化学科准教授）、人間科学博士（大阪大学）、専門社会調査士。

宮崎幸江氏（上智大学短期大学部教授）

「多文化共生を担う人材育成と外国籍市民への日本語支援」



専門はバイリンガリズムと日本語教育。ニューカマーの定住化が進む神奈川県で、小中学校への学生派遣や日本語教室運営を通し、外国籍市民のエンパワメントを行う。著書：『日本に住む多文化の子どもと教育：ことばと文化のはざままで生きる』2014 上智大学出版。

石井恵理子氏（東京女子大学教授）

「多様な子どもたちを豊かに育む社会の創成に向けて」



日本語学校、大学留学生センター等を経て、国立国語研究所に勤務。中国帰国者、インドシナ難民、日系人労働者、子ども等、多様な日本語教育の課題に出会う。現在、東京女子大学に勤務。「Life を支える日本語教育」を理念とし、人と社会とことばの問題に取り組んでいる。

司会：阿部新（公益社団法人日本語教育学会大会委員・東京外国語大学）

◆定員：500名（先着順）申込不要

◆参加費：無料 ＊午後からのプログラムにも参加される場合には、別途参加費が必要です。

◆問合せ先：公益社団法人日本語教育学会大会担当

〒101-0065 東京都千代田区西神田 2-4-1 東方学会新館 2F

TEL: 03-3262-4291 / FAX: 03-5216-7552 / E-mail: taikai-office@nkg.or.jp

主催：公益社団法人日本語教育学会 共催：東京外国語大学 助成：一般社団法人尚友倶楽部